

◆ 平成 23 年度（後期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化 学部 国際文化 学科	学科長 (学科高等教育 推進部門委員 兼任)	平成 23年 10月18 日(火) 11月1日(火) 11月29日(火) 12月20日(火) 平成 24年 2月7日(火) 3月6日(火)	1212 会議室	テーマ：カリキュラム内容の検討 参加者数：学科教員全員 簡単な状況報告： 前期にワーキングとして見直しを進めてきたカリキュラムについて、学科全体としての意見交換と方向性の集約を実施した。全学的には教育組織のあり方検討が並行して進められていたが、学科のまとまりとしてコースなどの細分化をせずに、「国際理解」「比較文化」「コミュニケーション」を支柱とした方向性を合意した。カリキュラムの見直しは次期も継続して進め、平成 25 年度からの新展開を準備したい。また、後期に予定していた学生の意識、意見の徴収については、キャリアポートフォリオなどの活用をも含めてさらに模索し、次期に実施することとした。
経営情報 学部 経営学科	西脇 廣治	平成24年1月11日15:05～、 2月18日15:30～、 3月14日15:45～ (各30分～1時間程度) これ以外に学生の勉学状況などに応じて学部教員、学生、広島・庄原キャンパス教学課担当者、保護者との間で1か月に3～8回程度、情報交換、面談、指導方針の検討等を行った。	研究室、講義室、会議室、学外等	テーマ：過年度生に対する指導体制の構築と検証 参加者数：旧広島県立大学経営学部経営学科教員 7 名と広島・庄原キャンパス教学課担当者各 1 名が中心となって活動したが、過年度生は経営情報学部教員の授業科目を幅広く履修していたため、経営情報学部教員全員が学生の状況に応じて適宜、指導、サポートを行った。 簡単な状況報告： 学生と指導教員(必要に応じて副指導教員も参加)の週 1 度の面談、学生の出席状況調査結果に基づく旧広島県立大学経営学部経営学科教員による定期的な指導方針検討会議の開催、教員と広島・庄原キャンパス教学課担当者との情報交換、授業担当者による学生への声掛けと激励、保護者へ状況報告(学生の了承を得た後)と支援依頼など、学部教員、事務職員、保護者による連携した指導と支援を継続した結果、最後の学生 1 名を無事卒業させることができた。
保健福祉 学部	今泉 敏	平成 24 年 3 月 2 日(金) 9:30～11:00 講師：西山賢一先生(埼玉) 演題：ネットワーキング型連携による先進的の大学教育	三原キャンパス 4 号館 1 階 4103 号室	テーマ：先進的の大学教育を考える 参加者数：保健福祉学部教員 50 名程度、理事長 簡単な状況報告： 経営に詳しい看護師や社会福祉士、保健福祉のイノベーションを牽引できる経営者、農業や医療の課題を掘り下げて啓発できる文芸編集者など、社会に密着して貢献できる実務力を持った専門家を育てるために、学部・大学院の教育は如何にあるべきか、「ネットワーキング型連携」を軸に考えるという斬新な視点での大学教育の提案がなされた。これに関して、活発討論がなされ、予定の時間をオーバーするほど会場は熱気に包まれ盛会であった。単一専攻であっても研究内容に応じて学位を選択できる修士博士一貫大学院の設立が可能になった現代に相応しい学部・大学院教育のあり方、自分の確かな専門力を軸に、他の専門職とネットワーキング型連携を築いて、社会に貢献し自己実現を果たすプロフェSSIONALの育成を目指す学部・大学院教育のあり方を考える契機となった。
保健福祉 学部 看護学科	山中 道代 黒田 寿美恵 宮本 奈美子 大内 隆 渡辺 陽子 笠置 恵子	平成 24 年 2 月 20 日(月) 13:30～16:30	三原キャンパス 地域連携センター	テーマ：教員のためのファシリテーション ―学生のグループワークを活性化するために― 参加者数：18名(看護学科14名、他学科4名) 簡単な状況報告： 講師：九州大学大学院総合新領域学府客員准教授 加留部 貴行 先生 内容：グループワークおよび講義 会場準備の段階で、これまでにを行った学習会を活かし机の配置はハの字型とし、ファシリテーター（講師）への注目度が高まるように工夫した。

				<p>研修会全体は、グループワーク＋講義で構成され、発掘（ジョイント・スピーチ）、共有（ワールド・カフェ）、収穫（KPT分析）、宣言（チェックアウト）についてグループワークを行った後、それらの基本的な考え方について講義された。考えを引き出すグループワークの方法を、自ら体験することで理解を深めることができた。参加者の満足度も高いものであった。</p> <p>その他：</p> <p>研修会に向けての基礎知識習得のための学習会および伝達講習の実施。</p> <p>①第三回学習会：10月18日(火)13:00～14:30（宮本講師）</p> <p>FD担当者による、ファシリテーションに関する書籍の抄読会を行った。抄読会の後、参加者によるディスカッションにより、内容を深めたり、疑問点を出し合った。</p> <p>②第二回伝達講習：11月15日(火)13:00～14:30（宮本講師、山中准教授）</p> <p>FD促進事業費によりファシリテーション基礎講座に参加。その内容の伝達講習を行った。</p>												
保健福祉 学部 看護学科 教育課程検 討会	松森 直美	<p>平成23年10月17日(月)</p> <p>11月16日(水)</p> <p>12月12日(月)</p> <p>12月27日(火)</p> <p>平成24年1月30日(月)</p> <p>3月2日(金)</p> <p>(各90分)</p>	3423 講義室	<p>テーマ：看護学科教育課程の評価と今後の展望に関する検討</p> <p>参加者数：8名</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>H23FD活動促進事業として、今後の教育課程を検討する上でカリキュラム改正前の看護学科の教育に関する在校生・卒業生及び実習施設、就業施設を対象とした質問紙調査を実施し将来構想のための資料収集を行った。配布数540（在校生1～4年生242名、卒業生162名、就職先病棟棟長136名：県内89、県外47）、回収数は以下のとおりである。</p> <p>毎月1回開催される教育課程検討会で調査用紙の作成、調査結果の分析等を実施した。</p> <p>【実施内容】</p> <p>9月～12月 調査用紙作成 1月～3月 調査実施</p> <p>2月～3月 結果の集計および分析・考察とまとめ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>在校生</th> <th>卒業生</th> <th>就職先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>236</td> <td>70</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td>回収率(%)</td> <td>97.52</td> <td>43.21</td> <td>56.62</td> </tr> </tbody> </table>		在校生	卒業生	就職先	計	236	70	77	回収率(%)	97.52	43.21	56.62
	在校生	卒業生	就職先													
計	236	70	77													
回収率(%)	97.52	43.21	56.62													
保健福祉 学部 理学療法 学科	大塚 彰 学科長	<p>①毎週水曜日（1時限目の学科会議時）・1月27日(金)の理学療法学科「臨床実習指導者会議」</p> <p>②10月19日(水)</p> <p>1月18日(水)</p> <p>2月15日(水)</p>	2416 会議室 (①のワークショップは2313教室)	<p>テーマ：</p> <p>①学生の学内および学外(臨床実習)での学習支援</p> <p>②学科教員の教育方法論に関する知識・技術の向上</p> <p>参加者数：</p> <p>①学科全教員(16名)。また、ワークショップでは、学科教員10名＋臨床実習指導者20名</p> <p>②学科全教員（長谷川講師の担当回には、コミュニケーション障害学科より1名の教員の参加。）</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>①-1：欠席が3回以上になった学生へのチューター連絡について</p> <p>①-2：学科教員と実習指導者として、学内で臨床能力を高める方法論として「OSCE」に関するワークショップ</p> <p>②-1：10月19日(水)9時～9時30分：教育・研究・その他の業務を遂行する上での具体的な工夫（担当：高島 裕臣）</p> <p>②-2：1月18日(水)9時～9時30分：臨床実習におけるインシデント分析-第2報-（担当：田中 聡）</p> <p>②-3：2月15日(水)9時～9時30分：模擬患者演習に関するアンケート調査報告-学生の「気付き」について（担当：長谷川 正哉）</p>												

保健福祉 学部 作業療法 学科	土田 玲子	平成 23 年 12 月 14 日 (水) 12 : 30 ~ 13 : 00	2416 講義室	テーマ：医療系学部におけるシミュレーション教育について 講師：田丸 政男 参加者数：16 名 簡単な状況報告： 作業療法学科以外の教員も出席し、シミュレーション教育の問題点、今後の学科における取組の方向性について話し合った。
		平成 24 年 1 月 11 日 (水) 12 : 30 ~ 13 : 00	2416 講義室	テーマ：第 5 回アジア太平洋作業療法学会報告 講師：高木 雅之、山西 葉子 参加者数：13 名 簡単な状況報告： アジアにおける作業療法士の学術活動の現状について報告され、今後の日本における作業療法士の役割について討議した。
保健福祉 学部 コミュニケーション 障害学科	城本 修	①学生支援会議および毎月の学科会議	1319・1310 演習室	テーマ： ①学生支援の充実 参加者数：コミュニケーション障害学科教員 13~17 名。 簡単な状況報告： 学生支援にかかわる情報の共有をはかった。個別の事例への対応のほか、実習時の対応、国家試験への対策などが中心。
		②ST 養成校研修会への教員の参加（山崎准教授）全国研修会（高知市） 平成 24 年 3 月 17 日（土） 13 : 00 ~	高知リハビリ テーション学院	テーマ： ②専門職教育の効果的な方法についての検討 参加者数：研修会への参加は本学科教員 1 名が参加。 簡単な状況報告： ST 養成校研修会 全国研修会では高知リハビリテーション学院教務部長による「最近の学生について思うところ」という講演を受けて、最近の学生事情について討論を行った。
		③ i) 学科セミナー 1. 平成 23 年 9 月 21 日 (水)12 : 10 ~ 2. 平成 23 年 11 月 15 日 (火)12 : 10 ~ 3. 平成 23 年 12 月 13 日 (火)12 : 10 ~ 13:00 4. 平成 24 年 1 月 25 日 (水)12 : 10 ~ ii) 第 1 回外部講師講演： 平成 23 年 9 月 20 日 (火) 15 : 30 ~ ii) 第 2 回外部講師講演： 平成 24 年 2 月 10 日 (金) 16 : 20 ~ 18:00	i) 1309 演習室 ii) 大学院 セミナー室	テーマ： ③専門・関連分野に関する知識の充実 参加者数：本学科教員 7~10 名と他学科教員及び大学院生 10 名程度。 i) 学科セミナー 第 1 回テーマ：ラットとヒトの等価な課題における選択反応時間課題遂行（古屋 泉准教授） 第 2 回テーマ：新しく開発された舌圧測定器の臨床応用について（武内 和弘教授） 第 3 回テーマ：言語訓練のコンプライアンス（城本 修教授） 第 4 回テーマ：福島原発事故について（放射線防護の観点から）（大西 英雄教授） ii) 外部講師講演 第 1 回：伊集院 睦雄先生（東京都健康長寿医療センター研究所） 「語彙処理に関するコネクショニスト・アプローチ」 第 2 回：廣谷 定男先生（NTT コミュニケーション科学基礎研究所人間情報研究部） 「ここまで可能になった発話中枢のシミュレーション研究：なぜ人は吃るのか？」 簡単な状況報告： それぞれの教員の専門領域での研究の紹介があり、いずれも、参加教員の学びの機会ともなった。 実施目的： コミュニケーション障害学科教員間での情報の共有化を進め、学生支援の一層の充実をはかるとともに、

		<p>①随時（月 1 回程度）</p> <p>②平成 24 年 3 月 28 日 12:15～（模擬患者と本学教員による検討会議）</p> <p>③11 月 18 日（実習報告会）</p>	<p>1309 演習室, 1316, 4511 大学院 セミナー室, 4102 地域連携 センター</p>	<p>模擬患者を通してさらに実習教育の充実を図る。</p> <p>実施内容：</p> <p>①学生指導および支援に関する情報を学科内教員間で共有化するための「学生会議」を開催する。</p> <p>②模擬患者による臨床教育の充実を図るために、模擬患者担当者との教育内容の検討。</p> <p>③実施指導者会議や実習訪問などの機会を通じて、学外臨床実習施設の指導者から、“外から見た”本学科の臨床教育に関する意見・助言を得る。</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>学生からの報告会の開催と実習訪問による聞き取り結果を共有し、今後の実習教育に役立てた。実習終了後に学生が記入し提出をする学外実習アンケートを回覧しその結果を関係教員で共有するようにした。</p>
保健福祉 学部 人間福祉 学科	三原 博光	<p>2 年生： 平成 23 年 11 月 18 日（金）， 11 月 19 日（土）</p> <p>3 年生： 平成 23 年 12 月 7 日（水）</p>	三原キャンパス	<p>【実習報告会】</p> <p>参加者数：学生・教員含め 100～150 名</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>学生たちが自主的に企画，司会，質疑応答を積極的に行った。</p>
		平成 24 年 2 月 17 日（金）	三原キャンパス	<p>【実習指導者担当会議】</p> <p>学生受け入れ実習施設の実習担当者と実習に伴う様々な問題点を協議する。特に 2 年生新カリキュラムに伴う実習の問題点について協議。</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>広島県内の実習施設から 10～15 名の実習担当者が参加した。実習担当者から，実習指導教員に対して，実習前後に必要な教育的指導の情報を得た。</p>
		平成 24 年 3 月 3 日（土）	<p>こころネット 三原まつり会場</p>	<p>【こころネット三原まつり】</p> <p>精神障害者とその家族，施設スタッフによる模擬店，講演会にボランティアとして参加。</p> <p>参加者数：約 600 名</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>3 年生 4 名が代表を務め，実行委員会メンバーとして，企画段階から継続的に参加してきた。学生はボランティア募集のパンフレットを作成して学部学生に配布し，「思いやり戦隊ハートレンジャーショー」の企画実施もした。前日の設営に 17 人，当日は 38 人の学生がボランティアとして参加し，主体的に活動した。</p>
		毎月 1 回 （学科会議・実習会議）	三原キャンパス	<p>テーマ：問題を抱える学生の教育的指導（成績不良など）</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>成績不良の学生に対する教育的指導について，学科内会議で積極的話し合いを行った。特にこれらの学生の施設実習に伴う問題点と対策について，実習会議で検討した。</p>